様式１－２

文化遺産総合活用推進事業　実施報告

1 都道府県・市区町村名	岐阜県大野郡白川村	2 補助事業の種類	世界文化遺産活性化
3 実施計画の名称	白川村文化遺産活用観光マネジメント事業実施計画		
4 実施計画期間	平成　30　年度　～　平成　33　年度		

5 過去の補助事業実績	
平成２３年度文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業	千円
平成２４年度文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業	千円
平成２５年度文化遺産を活かした地域活性化事業	千円
平成２６年度文化遺産を活かした地域活性化事業	千円
平成２７年度文化遺産を活かした地域活性化事業	千円
平成２８年度文化遺産を活かした地域活性化事業	千円
平成２９年度文化遺産総合活用推進事業	千円
平成３０年度文化遺産総合活用推進事業	2,248　千円

6 計画の実施状況（概要）
※平成30年度までに実施した計画の実施状況を記載してください。

白川村世界遺産マスタープランを踏まえ、次の事業を実施した。
（１）白川村茅文化調査研究事業
　白川村では世界遺産集落の永続的な保存管理を目的とした「白川村世界遺産マスタープラン」（平成２２年１２月）を策定した。このマスタープランでは「１．世界遺産の価値を高める」「２．世界遺産の価値を伝える」「３．世界遺産で人を育てる」の３つの柱をたてて、遺産地区の抱える課題の解決を目指す。本事業は特に「世界遺産の価値を伝える」柱として文化遺産を活用した地域活性化事業を行う。
平成30年度は白川村茅文化調査研究事業を行った。世界遺産の価値を形成する合掌造り家屋を維持するための重要な伝統資材である茅の確保は昨今村の大きな課題となっている。現在の白川村における茅の確保はそのほとんどを村外の茅業者に依存している状態であるが、以前は全ての茅を村内で自給していた。戦後合掌家屋の減少に伴って茅の確保のあり方も大きく変化し、茅を全て自給していたころの茅確保の文化は無くなりつつある。昔は全ての家が合掌造り家屋であったため相互扶助の屋根の葺き替え制度「結」においては屋根葺きの労力の扶助だけではなく材料である茅も相互の貸し借りによって賄っていた。そのためどの家でも自分の茅場を保有し秋の刈り取りの季節には来春の茅葺に備え各々で刈り取りを行っていた。白川村ではそういった茅の確保を中心とした生活風習が文化として形作られてきた。茅を村外依存している昨今においてもかろうじて残っており個人の茅場の茅をいまだに刈り取って維持している家も存在している。
　こういった状況を踏まえ、茅の刈り取りの手法や保管方などを含め記録調査を行い、かろうじて残されている白川村の茅文化の記録研究を行いその価値を広く伝えるための教材を作成した。
　調査結果については同じ遺産を保全する富山県南砺市にもお渡しし情報共有を図った。
　今回の調査研究により下記の調査を実施した。
・白川村の茅葺技術伝承に携わってきた茅葺職人や地域の関係者へのヒアリング調査。
・茅葺き、茅採取、関係資材調達現場での写真撮影を主体とした実態調査。
・過去の茅調達保管法を記録した調査資料より現在の調達・保管方の移り変わりを調査。
・上記調査結果をもとに「結」を中心とした白川村の茅葺技術記録書籍の作成。

7 定量的な目標に対する計画の進捗状況 ※平成30年度までの進捗状況について，実施計画で設定した指標に基づき，状況値と目標に対する達成率を記載してください。 （指標・目標値を複数設定している場合は，全て記載）。	別紙①②のとおり

8 事業実施による効果等

※平成３０年度までの計画の実施により得られた効果や実施以後の状況（人数、理解度、活用状況、人材育成などの指標に基づき、定量的・定性的な効果）を具体的に記載してください。

今回調査により下記の事項について成果が得られた。
・ヒアリングにより「結」による村人の相互扶助のみで継承されてきた白川村の茅葺文化が社会状況の移り変わりで職人制が導入される歴史的背景を記録することができた。
・現在も職人を中心に伝統技術がしっかり継承されている現状を記録でき書籍にまとめることができた。
・近世から続く茅の調達、保管方と車社会となった現代の調達保管方の違いを比較し書籍にまとめることができた。
・これからの茅葺文化を継承していく人材へのヒアリングを通じ継承活動の実態把握ができ、今の若者の思いを書籍として　普及することで継承活動の村内波及が期待できる。
・上記の記録と今に伝わる「結」の実態とを併せて書籍にまとめ配布発信することで村人の茅文化継承の気運を高めることができる。
・上記内容を英語併記で書籍を作成でき、今後広く書籍を普及することで世界中の人々に白川村の茅文化の価値を発信できる。
・今回の書籍を白川郷学園の地域学習の教材として積極的な活用をしていくことで村の歴史文化に対する興味を育む基礎教育が展開できる。

9 得られた効果の検証・分析

平成３０年度白川村茅文化普及啓発書籍の完成により平成３１年度に村内配布できる体制が整った。今回調査研究の成果を広く普及啓発することで地域住民の茅文化に対する意識や関心が向上しうしなわれつつある文化の復興を期待できるとともに、連綿と受け継がれてきた茅文化を次世代へ確実に継承できる。また、今回作成書籍は英訳併記であるため白川村を訪れる世界中の人々に世界遺産を維持継承してきた白川村の茅文化の根幹を説明することができ、より文化遺産に対する正確な知識を普及することができる。まずは３１年度に村内配布し「白川村の茅文化に誇りを感じる」住民意識調査を進め効果の検証を行う。

10 総括評価結果

※実施計画期間終了の翌年度における総括評価の結果を定量的・定性的な側面から具体的に記載してください。

様式１－２別紙①

7 定量的な目標に対する計画の進捗状況　別紙

具体的な指標１：	住民意識調査の「白川村の茅文化に誇りを感じる」割合				関連事業:	①
目標値１：	平成 30 年度 0 ％ ⇒ 平成 33 年度 70 ％					
進捗状況１：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
％	0 ％	％	％	％	％	
	0%					

様式１－２別紙②

7 定量的な目標に対する計画の進捗状況　別紙（関連事業）

事業①：	白川村茅文化調査研究事業	実施団体：	白川村文化遺産活用観光マネジメント事業実行委員会
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成　30　年度　～　平成　　年度
事業概要：	白川村における世界遺産の普遍的価値を説明するうえで重要な要素である茅文化の記録保存と普及啓発を目的とした調査研究事業を行う。		
具体的な指標：	住民意識調査の「白川村茅文化に誇りを感じる」割合		
目標値：	平成　30　年度　0　％　⇒　平成　33　年度　70　％		
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率		

平成　年度	平成　30　年度	平成　31　年度	平成　32　年度	平成　33　年度	平成　34　年度
％	0　％	％	％	％	％
	0%				